

# 医療福祉・在宅看取りの (H27/9/10) 地域創造会議 通信 第27号



H27年度総会(8/29)



平素は、「医療福祉・在宅看取りの地域創造会議」へのご理解・ご協力ありがとうございます。

8月29日(土)に開催いたしました。「H27年度医療福祉・在宅看取りの地域創造会議総会・研修会」にはご多忙にもかかわらず81名の方におこしいただき、意見交換会ではたくさんのご意見をいただき誠にありがとうございました。お陰をもちまして盛会のうちに無事終えることができました。意見交換会でのご意見を一部ですが掲載いたします。今後とも医療福祉・在宅看取りの地域創造会議をよろしくお願い致します。

日時 平成27年8月29日(土) 13時~16時30分  
場所 コラボしが21 3階 大会議室(大津市打出浜2-1)

~プログラム~

## あいさつ

総会 事業報告・会計報告・事業計画(案)・収支予算(案)

研修会 「在宅医療・介護連携推進事業について」

講師 厚生労働省老健局老人保健課 医療・介護連携技術推進官

秋野 憲一さん

シンポジウム「2025年は、私たちがやります、支えます」

~在宅医療・介護にかかわる若手からの熱いメッセージ~

## 「シンポジスト」

○辻 広志さん(NPO法人宅老所はな 所長)

○深津 良太さん(介護老人保健施設リハビリセンターあゆみ 作業療法士)

○増田 清博さん(ますだ内科医院 院長)

○山本 ゆきさん(訪問看護ステーションなかさと 看護師)

コーディネーター 角野 文彦(滋賀県健康医療福祉部次長)

意見交換会 「未来に向けて私たちにできること」

~まだまだ若い人に負けません~



グループワーク

各グループより発表・総括

## グループワークより

### シンポジウムや講演を受けての感想・気づきなど

- ・シンポジストの話聞いて、その場その場で考えて動いているんだと感じた。行政はどうあるべきか考えた。
- ・家族の中で看取られることが素晴らしいとシンポジストの言葉で思った。
- ・これからの滋賀県は大丈夫だなと感じ取れる時間でした。
- ・在宅看取りは訪問看護が入ってこそ成り立つのだと思う。
- ・丁寧に活動されていると思った。 ・若い人からパワーをもらい初心に戻れた。

### それぞれの地域での活動について(情報交換)

- ・在宅医療カフェ(医師会) ・県内高校に行きアピール(看護協会)
- ・毎年14~5人の在宅看取り(守山 ケアマネ) ・東近江は介護・看護人材が不足している。

### 在宅療養・看取りの支援を進めるために、自分ならどんな活動ができそうか。今後の課題は?

- ・顔の見える関係づくりで地域でのチームづくりを進める。人材確保が課題。
- ・看取りの経験談を聞けるといい。
- ・情報の共有が必要。カルテがあるといい。

厚生労働省等の国機関からもたくさん参加いただき

滋賀の取り組みはネットワーク型。さまざまな職種の方が主体的に集まり活動していることがすばらしい。

- ・田中 義高さん(厚生労働省 保険局医療介護連携政策課)
- ・中園 和貴さん(厚生労働省 職業安定局障害者雇用対策課)
- ・免田 圭介さん(厚生労働省 年金局数理課)
- ・米岡 良晃さん(厚生労働省 社会・援護局保護課)
- ・櫻井 公彦さん(復興庁 医療福祉班)

医療福祉・在宅看取りの  
地域創造会議  
事務局 笹山・橋本



若いエネルギーに参加の皆様が大いに刺激を受けてもらえることを願います。 笠原代表幹事



この取り組みをさらに充実をさせて滋賀県を日本のモデルにしたいと思います。 三日月知事



在宅医療・介護連携推進事業のゴールは終末期の医療を自宅や地域で受けたい、提供して欲しいと希望する人に対して答えられる地域づくり。どうやって作るのかは市町によって医療資源・介護資源が違うのでそれぞれの地域にあったご当地のシステムを作ってください。 講師



人材育成として、中学生の職場体験や高校生・大学生などを積極的に受け入れています。 シンポジスト 辻さん



地域に居場所づくりを。意識的に取り組んでいます。 シンポジスト 深津さん



在宅看取りに必要なことは家族の覚悟や主治医との連携ではないかと思います。 シンポジスト 増田さん

家に帰りたいという言葉が忘れられず病棟ナースから訪問看護師へ転職「最期は家で看取れてよかったです。」と言って貰えて訪看員に尽きる思いでした。 シンポジスト 山本さん

